

## シリーズパソコン周辺機器 ⑱

## 「電子書籍」

宮杉 浩

先般アップル社より多機能情報端末「iPad」が発売されました。様々なツールが使えるこの端末の利用として「電子書籍」の活用が出版業界を始め各業界から注目を集めています。今回は「電子書籍」についてお話したいと思います。

「電子書籍」とは古くからあった紙とインクによる印刷物ではなく、電子機器のディスプレイで読む出版物のことです。電子出版物といえはかつてはCD-ROMなどの記録媒体に書籍の内容を記録したパッケージ品が主流でしたが、今日の「電子書籍」はインターネットからのダウンロードやサーバーに蓄積された書籍データをオンラインで閲覧する形態の出版物が主流となっています。これは2000年頃からインターネットのブロードバンド化が急速に広がり、インターネット上で大容量のデータのやり取りが可能になった事に起因しています。アメリカでは1990年代末から、日本では2003年から電子書籍専用端末事業が進められ、今日の電子書籍の礎となりました。

電子書籍の利点はネットワークを通じて、いつでも手軽に書籍を入手でき、パソコンにダウンロードしておけば好きな時に、読むことが出来ることです。最近では携帯電話による配信も行われ、「ケータイ小説」と呼ばれる小説が人気を呼び、紙媒体での書籍化という逆現象も起きています。今までは著作権がきれた古い書籍の電子化が中心で、利用者のニーズに応えているとは言い切れない状況もありましたが、今後冒頭に挙げたiPadの登場をきっかけとする多機能情報端末の発展や大手インターネットサイトによる書籍の電子化事業、出版業界の電子書籍事業への取り組みの強化などにより、電子書籍はかなりの進化を遂げていくことが予想されます。

電子書籍の話題が出ると必ず議論となるのが「今後紙媒体での“本”は無くなってしまふのか」という点ですが、個人的には決してそんな事は起きないだろうと考えています。電子書籍を読むためのパソコン、もしくは多機能情報端末が紙媒体での“本”に匹敵するだけの身近で手軽なものとなることはないと考えているからです。ただ、電子書籍が紙という有用資源に依存しない形態である事、著作権保護がコピーガードプログラムなどによって容易である事、出版業界の抱える在庫・返品の問題を解消できる可能性があることを考えると、その位置づけが紙媒体の“本”と同等のところまで来る可能性はあるでしょう。そして利用者が“本”の媒体を自分のニーズに合わせて選択できる時代が来ていることは間違いありません。

ところで本学図書館も「NetLibrary」と呼ばれる電子書籍データベースを導入し、利用に供しています。図書館ホームページや蔵書検索からアクセスすることができ、現在言語学を中心に72タイトルのe-book形式の電子書籍を閲覧していただけます。“本”の新たな可能性である電子書籍を是非一度閲覧してみてください。

みやすぎ ひろし（係長補佐・管理運営課）